

令和3年度上半期 地域活動まとめ

	地区福祉委員会の目標	各地区の動き	地域住民の声	専門職からみた課題と今後の展望
精道地区		<ul style="list-style-type: none"> 塗装業者を名乗る悪質業者が地域内に出没、注意文書を配布した。 ほのぼのプティカフェで、緊急事態宣言中も野菜市として開催し、つながりを切らさず。 浜芦屋自治会の会長交代に伴い、自治会活動を活性化させるための相談を地域支え合い推進員が受けた。月1回の清掃活動を開始。防災講座、スマホ講座も開催した。 つどい場交流会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会では、研修を積極的に行ってほしい。 自治会活動は必要性を感じない。（浜芦屋町） 阪神大震災で大変な思いをした。防災には取り組むべき。（浜芦屋町） 	<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会が議論の場にならない。学び→意見や情報交換の場を持つことで、少しずつ話し合う風土を作っていけるか。宮川地区のように、間に代表者会を持つほうがよいか。
山手地区	健康で過ごそう！ フレイル予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> 生きがいデイサービス（大原集会所の歌おう会）は、9月まで休止。10月以降高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の、専門職による介護予防の講座を行う。 地域支え合い推進員、認知症地域支援推進員が協働でコンビニに訪問し関係づくりを行った。 民生児童委員より、マンションの集会所の有効活用の相談を地域支え合い推進員が受けている。（奥山） 	<ul style="list-style-type: none"> 大原集会所での歌おう会は、近隣への配慮のため窓をあけた状態での実施ができないため、緊急事態宣言下は中止にせざるを得ない。 少子高齢化が顕著。介護予防や健康に関する取り組みを考えている。災害の時は地域が孤立してしまう。（奥山） 	<ul style="list-style-type: none"> 度重なる緊急事態宣言により、話し合いの場としての地区福祉委員会が十分に開催できていない。 奥山の少子高齢化や災害時の課題は地域住民も認識しており、介護予防や健康に関する取組に包括等と連携し取り組むため企画。災害に関しても課題があるため関係者と協議したい。
宮川地区	つながりで健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> CSWが関わる支援対象者による折り紙教室を開催した。 町内で保管している車いす用に市民から不要な生地を募ってカバーを作ろうという動きがあった。（呉川町→宮川地区全体） ケアマネ向け移動店舗ツアー開催。その後、地域住民の話し合いの場を持った。（打出小槌町） つどい場交流会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者はきっかけがなければ外に出られなくなっている。 移動店舗が町の取り組みになっている。（宮川町） 自治会活動が活発でその協力では動いてるけど、福祉委員会としては動いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各町の民生児童委員と、福祉推進委員が自治会との結びつきが強く、活発な自治会活動を協働して進めている反面、地区福祉委員会としての活動は少ない。
岩園地区	地域のつながりを深めよう！ 声かけ・見まもり・気づきの心で	<ul style="list-style-type: none"> 岩園幼稚園と地区福祉委員会が協働で幼稚園の七夕飾り作りを行った。 生きがいデイサービス再開に向けて地区福祉員会で協議を行っている。 施設が使えなくなったことにより、地域住民が自宅を提供して岩園喫茶を再開した。 翠ヶ丘集会所での体操教室が立ち上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問活動において、体力の低下がみられる高齢者がいる。生きがいデイサービスなどの活動を再開しないといけない。 コロナの影響で活動の在り方について悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 度重なる緊急事態宣言により、話し合いの場としての地区福祉委員会が十分に開催できていない。 マンションの集会所など、利用できる場所の情報収集が必要
朝日ヶ丘地区	そ…それぞれに れ…連携して い…一緒に築く ゆ…豊かな地域	<ul style="list-style-type: none"> コープの移動店舗活性化のため、訪問活動の際にニーズ把握を行った。 子育て応援団の下校時の見まもりを、コミスク主催の放課後読書タイム開催日に実施。 朝日ヶ丘おとこ倶楽部が自主グループ化した。 レックスマンション集会所でチェアヨガのグループが立ち上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週のコープの移動販売が助かっているという声がある反面、商品が少ない等の意見もある。 コロナの影響で活動の在り方について悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> コープの移動販売の利用者が少なく、住民と活性化を検討する必要がある。 企画していた認知症サポーター養成講座がコロナの影響で中止になったまま再企画の話ができていない。
三条地区	①福祉マップを見直そう ②訪問事業で見まもろう	<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会と、三条コミスクが協働で、社協の理学療法士による介護予防講座を開催した。 民生児童委員の訪問活動から、専門職につながり生活保護やサービス利用になった事例があった。 民生児童委員が行っていた、小学校1年生の下校サポート（4月）を福祉推進委員も参加した。 活動したいという地域住民からの相談を、地域支え合い推進員が受け、芦屋西教会と場所の利用を含め話し合いの場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、つどい等集まる活動が開催しにくくなったが、訪問し「気にかけていますよ」というメッセージを伝えることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防講座を受講した、民生児童委員、福祉推進委員、コミスク役員が、地域で活躍するしかけが必要。
打出浜地区		<ul style="list-style-type: none"> 地域交流拠点、「プラスワン打出浜ブーケ」が開設した。誰でも集える場所として、運営委員が常駐している。折り紙講座や、介護保険講座など開催している。 打出集会所の生きがいデイサービスが再開した。 日本語の読み書きを学びたいという、外国人からの相談をCSWが受けて、こくさいひろば芦屋へつないだ。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、気分的に落ち込んだ方からの相談を受けることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 立ち上がった「ブーケ」の地域への定着と、安定した運営が課題。 43号線の南北で、高齢者の数や住民のコミュニティ意識が異なるため、地区全体での活動は難しい。
潮見地区	生きがいデイサービスの充実をはかる	<ul style="list-style-type: none"> 生きがいデイサービスの愛称を決めたり、広報や内容、会場を見直している。 高齢者のつどいをお菓子の持ち帰り形式で行い、顔を合わせる場を作った。 わかば子ども食堂立上げ。月2回（夏休みは毎週）開催。毎回平均65名の利用がある。 潮芦屋地区で体操の自主グループ「よつば会」が立ち上がった。 ふれあい元気の会、わいわい食堂、カワセミなど、工夫して活動を継続している団体もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがいデイに誘ったら「私はそういうの（介護保険のデイサービス）はまだいいわ」と言われた。 敬老イベントにすると人が来ないが、防災イベントにすると高齢者も出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 潮見ブロックと、潮芦屋ブロックは街びらきした時期が異なることと、地理的なことからコミュニティ意識が異なるため、地区全体での活動は難しい。 ふれあい元気の会では、施設との交流が薄れてきているので、オンラインを活用したイベントを検討していく。
浜風地区	お声掛けをしましょう！	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のつどいを1年ぶりに再会した。 信号の無い横断歩道の通学時の見まもりを行っている。 自治会のリーダーより魅力ある街づくり、情報発信についてのプロジェクト会議への参加呼びかけが高齢者生活支援センターにあり、地域支え合い推進員と一緒に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 信号が無い横断歩道で、車のスピードが出て危ないところがある。 地域ケア会議に出席したが、進展が無かった。 魅力あるまちづくり、情報発信について考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会での意見交換は活発であるが、発言する委員が特定されている。 魅力あるまちづくりの協議には、福祉分野以外への構成メンバーの広がりが課題になる。